

安全データシート

作成日：2024/4/19

改定日：2024/4/19

バージョン：1

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : キクイムシコロリ
供給者の会社名称 : 株式会社 吉田製油所
担当部門 : 品質管理部
住所 : 東京都台東区上野 3-2-8 新ジイドビル

電話番号 : 044-288-5522
緊急連絡電話番号 :
ファクシミリ番号 : 044-277-7721
作成日 : 2024/4/19

推奨用途及び使用上の制限

用途セクター[SU] : 木材および木製品の製造
推奨用途 : 殺生物製品 (殺菌剤、害虫処理剤など)
使用上の制限 : 内装用に大面積で使用するのはい、推奨されない。

2 危険有害性の要約

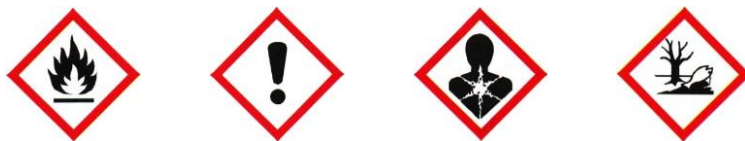
GHS分類：

エアゾール:区分1
引火性液体:区分4
特定標的臓器毒性 (単回ばく露):区分3 (麻酔作用)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露):区分2 (中枢神経系)
水生環境有害性 短期 (急性):区分1
水生環境有害性 長期 (慢性):区分1

注：急性毒性経口の不明成分は40%。急性毒性経皮の不明成分は87%。急性毒性吸入 (気体) の不明成分は0%。急性毒性吸入 (蒸気) の不明成分は50%。急性毒性吸入 (粉塵/ミスト) の不明成分は47%。水生環境有害性急性毒性の不明成分は10%。水生環境有害性慢性毒性の不明成分は10%。

GHSラベル要素：

絵表示



注意喚起語： 危険

危険有害性情報：

- ・極めて可燃性の高いエアゾール 高压容器： 熱すると破裂のおそれ。
- ・可燃性液体。
- ・眠気又はめまいのおそれ。
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (中枢神経系)。
- ・水生生物に非常に強い毒性。
- ・長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き：

- 【安全対策】
- ・熱、高温のもの、火花、裸火、及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 - ・裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
 - ・使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
 - ・粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 - ・粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 - ・屋外または換気の良い場所だけで使用すること。
 - ・環境への放出を避けること。
 - ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 【応急措置】
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 - ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 - ・気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
 - ・火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。
 - ・漏出物を回収すること。
- 【保管】
- ・換気の良い場所で保管すること。
 - ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 - ・施錠して保管すること。
 - ・日光から遮断し、 50℃以上の温度に暴露しないこと。
- 【廃棄】
- ・内容物/容器を該当放棄に従い、都道府県知事に許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して安全に廃棄すること。

他の危険有害性：

- ・蒸気が広範囲に拡散して着火源に到達し、発火や火炎の逆流、爆発を引き起こす恐れがある。

3 組成及び成分情報

混合物

成分名	濃度 %	CAS No.	PRTR種類	労働安全 衛生法-通 知義務	毒物及び 劇物取締 法	化審法整 理番号	化審法対象物質
シプロコナゾール	0～1%	94361-06-5					
ビフェントリン	0～1%	82657-04-3					
ブチルカルビトール	2.50%	112-34-5	第15項を参照	●			
石油留分	47.00%	64742-47-8		●			
n-ブタン	5～10%	106-97-8		●			
n-ペンタン	0～5%	109-66-0					
ジメチルエーテル	40～45%	115-10-6					
プロパン	0～5%	74-98-6					
2-メチルブタン	0～5%	78-78-4					

濃度限界未満だがSDS作成濃度以上の成分：
ブチルカルビトール, 2.5%, 特定標的臓器単回区分2；

4 応急措置

応急措置の描写

全般的な注意事項：

医師の処置を必要とする。直ちに医師に相談すること。嘔吐が起こった場合、誤嚥に気を付けること。被災者を、危険区域から連れ出し、寝かせること。被災者を、横たえて運ぶこと。被災者から、目を離さないこと。被災者を、危険区域外へ移すこと。事故あるいは体調がすぐれない場合は、直ちに医師を呼ぶこと（可能ならば、取扱説明書あるいは安全データ書を呈示すること）。汚れが付着し、濡れた衣服は、直ちに脱衣すること。念入りに、身体を洗浄すること（シャワーあるいは入浴）。症状は、暴露後数時間して発症する可能性もあるので、少なくとも48時間は医学的観察が必要である。疑わしい場合や症状が現れている場合は、医師に相談すること。意識がない場合は回復体位をとり、医師の診断を受けること。

吸入した場合：

被災者を空気の新鮮な場所に移し、暖めて安静にさせること。口対口又は口対鼻の人工呼吸はせず、アンブ蘇生バッグ、あるいは人工呼吸器を使用すること。呼吸困難または呼吸停止のときは、人工呼吸を開始すること。蒸気を吸い込んだ場合、中毒症状は数時間後に初めて現れることがあるので、必ず医者にかかること。気道に刺激がある場合は、医者にかかること。新鮮な空気を入れること。スプレーの霧を吸い込んだ場合は、医師に相談すること。噴霧ミストを吸入したときは、医師の診察を受け、包装材または製品ラベルを見せること。

皮膚に付着した場合

直ちに以下のもので洗浄すること：

水とせっけん

熱い溶解物に触れた際には、（次のもの）で皮膚を手当てすること：

水とせっけん

使用してはならない洗浄液：

酸性の洗浄剤 アルカリ性の洗浄剤 溶剤/シンナー

眼に入った場合：

眼の刺激があれば眼科医にかかること。眼に触れたときは、直ちに、瞼を開けた状態で10～15 minの間、眼を流水で洗浄し、眼科医の診察を受けること。直ちに洗眼用シャワーまたは水で注意深く念入りに洗い流すこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、さらに10～15 minの間、流水で洗浄する。その後、眼科医の診察を受けること。

飲み込んだ場合：

下剤として、硫酸ナトリウム（コップ一杯の水に、大さじ1）を、十分な活性炭と一緒に与えること。被災者の意識があるときは、吐かせること。

飲み込んだ場合、直ちに（以下のものを）飲ませること：

多量の水を、できれば活性炭と一緒に飲ませる。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項：

口対口又は口対鼻の人工呼吸はせず、アンブ蘇生バッグ、あるいは人工呼吸器を使用すること。応急処置：自己防護に留意すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

症状

以下の症状が表われ得る：

軽いめまい 意識不明状態 意識障害 嘔吐 麻酔状態 散瞳 瞳孔狭窄 酩酊状態 めまい 交感神経刺激作用 震顫 吐き気 低下した反応力

影響：

軽いめまい 意識不明状態 意識障害 麻酔状態 吐き気 低下した反応力

医師に対する特別な注意事項：

回復は、たいてい自然に起こる。応急処置、汚染除去、対症療法。必要に応じて、人工呼吸をすること。皮膚の汚染後は、鎮痛しショックを予防すること。症状に応じて処置すること。症状に応じて処置すること。解毒剤投与。

特別な治療：

唇、耳たぶ、爪が紫色になった場合は、できるだけ速やかに酸素吸入すること。

5 火災時の措置

消火剤**適切な消火剤：**

火災原因に応じて必要な消火剤を用いる。 水 窒素 アルコール耐性の泡 BC-粉末 ABC-粉末 二酸化炭素 (CO₂) 乾燥した砂 霧状の水

使ってはならない消火剤：

棒状注水 勢いよく噴き出る水 濡れた砂 水のジェット噴霧

火災時の特有な危険有害性**危険有害な燃焼生成物：**

二酸化炭素 (CO₂) 窒素酸化物 (NO_x) 一酸化炭素 有毒な熱分解生成物

消火作業へのアドバイス**消火作業者の保護具：**

適切な呼吸保護具を使用すること。 保護衣服。 ゴム長靴 ゴム手袋。 火災の場合：自給式呼吸器具を着用すること。 爆発する危険性あり。区域より退避させること。炎が爆発物に届いたら消火活動をしないこと。 区域より退避させ、爆発の危険性があるため、離れた距離から消火すること。 保護手袋

その他のデータ：

爆発性のガスおよび燃焼生成ガスは、吸入しないこと。 燃焼時、多量の煤が発生。 危険区域では、従事者の保護と容器冷却のため、水を霧状に噴射すること。 消火後の水は、下水道、土壌または自然水系に流してはならない。 汚染された消火用水は、分別して回収すること。 排水管や自然水系に流入させないこと。 製品は、火が燃えてる区域から、遠ざけること。 圧力上昇を防ぐために、熱を放出。 安全に実行可能であれば漏洩を止め、流出した材料を回収すること。それ以外の場合は制御しながら最後まで燃焼させること。 安全に実行可能であれば、破損していない容器を危険区域から遠ざけること。 閉鎖空間で二酸化炭素を使用する場合は注意すること。二酸化炭素は酸素を置換し得る。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置**人体に対する注意事項：**

粉塵の発生を防ぐこと。 個人用の保護具を使用すること。 ガスの拡散は、特に地表付近（空気より比重が大）と風向に注意すること。

保護具：

蒸気、粉塵やエアゾールの影響がある場合は、呼吸保護具を使用すること。 保護手袋／保護衣を着用すること。

緊急時の措置：

すべての発火源を除去すること。 十分に換気をする。 人々を安全な場所に避難させること。

環境に対する注意事項：

下水道のふたをすること。 ガス/蒸気/ミストは、水を霧状に噴射して沈降させること。 地下/土壌に至らせてはならない。 下水道、あるいは自然水系に流入させないこと。 より広い面積への広がりを防ぐこと（例えば、堰き止めるあるいはオイルを遮断する）。 汚染された洗浄水は、残しておいて処理すること。 ガス漏れ、あるいは自然の水系、土壌、下水道に漏洩する際には、担当当局に連絡すること。 泡を用いて蒸気発生を抑制すること。 水噴霧消火設備を使用して、蒸気形成を最小限に抑え形成された蒸気を分散させること。 廃棄物が確実に回収され保管されるようにすること。 流出したものが確実に受け止められるようにすること（たれ受けまたは受領域など）。 排水は、全量を回収して、排水処理設備で処理するよう、徹底すること。

封じ込め及び浄化の方法・機材**封じ込めに関して**

取り除くために適した材質：

砂 有機吸収材 珪藻土 土壌、アース おが屑 水（洗剤を入れた）

浄化にあたって

希釈あるいは中和のために適した材料：

データなし

他の項を参照：

安全取扱い：参照箇所 第7項 廃棄物処理：参照箇所 第13項 個人用保護具：参照箇所 第8項

7 取扱い及び保管上の注意**取扱い****防護措置**

安全な取扱いの為のアドバイス

忌避事項：

吸入 蒸気またはミスト/エアゾールの吸入 粉塵/粒子の吸入 皮膚接触 目との接触 ミストの生成/形成 粉塵生成/形成 粉塵の堆積

取り扱い時に充填するガス：

データなし

取り扱い時に充填する液体：

非該当

注意事項：

容器は、注意深く開いて取り扱うこと。 作業区域は、いつでも清掃できる状態にしておくべきである。 粉塵の吸入を避けること。 ガス/煙/蒸気/エアゾールを吸い込まないこと。 換気のよい場所でのみ、使用すること。 ヒュームの凝縮物は火災の危険を生じ得るので、排気フード、ダクトおよびその他の表面から、定期的に除去すること（人身用防護装備を使用すること！）。 裸火あるいは灼熱した物質に吹き付けてはならない。 その材料は、むき出しの光源、炎、およびその他の発火源から離れた場所に限って用いること。 製品を取り出した後は、必ず容器を密閉すること。 設備からの排出および保守の各作業中は、接近立入を制限すること。 使用後は、容器は直ちに蓋をして閉鎖すること。

火災防止のための措置

湿潤状態を保持するための物質：

非該当

混合禁止物質：

データなし

隔離すべき物質：

酸化剤

注意事項：

日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。発火源から遠ざけておくこと - 禁煙。熱源（例えば、高温の表面）、火花や裸火から遠ざけておくこと。周辺火災の場合のため、緊急冷却ができるよう備えておかなければならない。蒸気は、空気とともに爆発性の混合物を形成する可能性がある。爆発の危険があるため、その蒸気の地下室、煙道、下水への流入を防ぐこと。製品は熱くなると、可燃性の蒸気を発生する。作業時には、禁煙である。

エアゾールおよび粉塵生成を回避するための対策

充填、計量、サンプリング時に使用すべき装置：

局所吸引を備えた装置。

以下のタイプの局所換気を用いること：

粉塵に対応した排気フード。煙/蒸気に対応した排気フード。吸引設備を組み込んだ手工具。

環境に対する注意事項：

容器の底に排出口が付いていないこと。参照箇所 第8項。マンホールや下水道は、製品が流入するのを防ぐこと。

特定の要求あるいは取り扱い規則：

危険区域の床、壁、およびその他の表面は、定期的に清掃しなければならない。瓶詰め工程は、吸引設備を配備した場所でのみ行うこと。パッキンや接続ネジの状態に、異常がないか注意すること。新鮮な空気を作業者の呼吸ゾーンに供給し、背中側に排気すること。排気した空気の再循環は好ましくない。製品を吸収したぞうきんを、ズボンのポケットの中に携行しないこと。

一般的な労働衛生上の注意事項：

皮膚、眼、衣服との接触を避けること。職場では、飲食、喫煙、嗅ぎタバコはしないこと。換気のよい区域で、あるいは呼吸保護具を用いて仕事をする。汚れた衣服は、再使用する前に、洗わなければならない。休憩の前又は作業終了後には手を洗うこと。製品の取り扱い後、直ちに念入りに皮膚を洗浄すること。使用した作業服は、作業場所の外で着用するべきではない。汚染された衣服、靴またはストッキングはすべて直ちに脱ぐこと。私服は、作業衣とは別の場所に保管すること。汚染された材料はその日の作業終了時に毎回作業場から出し、他の場所で保管すること。

保管**包装材料**

容器または設備向けに適切な材料：

金属 ガラス 溶媒耐性のある材料 ポリオレフィン ポリテトラフルオロエチレン (PTFE) ポリエチレン

容器または設備向けには、不適切な材料：

データなし

共同貯蔵に関する注意事項

保管分類：

エアゾール 可燃性液体

混触禁止物質：

酸化剤

保管条件に関するその他情報：

容器は元のものに限り、涼しく換気のよい場所に保管すること。鍵をかけて保管すること。加熱すると、圧力上昇し破裂する危険がある。容器は破損から守ること。容器は、涼しく換気のよい場所で保管すること。容器は密閉し、換気のよい場所で保管すること。隔離して貯蔵すること。

8 ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

ばく露限界値：

成分	CAS NO.	国	許容濃度		最大許容濃度		管理濃度	
			mg/m3	ppm	mg/m3	ppm	mg/m3	ppm
n-ペンタン	109-66-0	JP	880	300				
n-ブタン	106-97-8	JP	1200	500				

生物学的限界値：

成分	CAS NO.	国	単位	限界値	パラメータ
データなし					

ばく露制御

設備対策

最初に：7章を参照すること。更なる対策は、必要でない。技術設備の具体化に関する追加情報は、7章を参照すること。人身用防護装備（保護メガネ、保護手袋、マスク等）は定期的に点検し記録簿に記載する。緊急時に使用する、洗眼器、排気設備等は定期的に点検し記録簿に記載する。気中濃度を推奨された管理濃度・許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を講じること。

物質/混合物の使用におけるばく露防止の関連対策：

換気（窓やドアを開ける）が必要。

ばく露を防ぐための技術的な対策：

職業暴露限界および安全取扱温度を考慮し、可能な限り操作温度を低く維持することによりフェームに対する暴露を低減すること。可能な場合には、封じ込められたプロセス内で取り扱うこと。あるいは、局所排気装置を考慮しなければならない。高温下や、ミストが発生する場合は換気装置を使用する。

個人用保護具

眼の保護具

適切な眼の保護：

保護眼鏡

注意事項：

データなし

手の保護具

適切な手袋の種類：

前腕までカバーする長手の保護手袋

適した材料：

PVC（ポリ塩化ビニル） PE（ポリエチレン） NR（天然ゴム、天然ラテックス）
CR（ポリクロロプレン、クロロプレンゴム） NBR（ニトリルゴム） ブチルゴム
FKM（フッ化ゴム） PVA（ポリビニルアルコール）

要求される特性：

静電気防止性 液体不透過性 気密性 防塵性 耐切断性

注意事項：

化学物質用保護手袋は、職場で扱う危険物質の濃度や量に応じて、適したものを選ばなければならない。前述した保護手袋を特別な用途に使用する場合、手袋の製造者に、化学物質耐性について確認することが望ましい。

皮膚及び身体保護具

適切な保護具：

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面 完全な、頭、顔、襟首の保護 袖カバー
保護前掛け

要求される特性：

静電気防止性 難燃性 伝導性靴底がついていること タイプ3 液体不浸透性

推奨される材料：

データなし

呼吸用保護具

呼吸用保護具が必要なケース：
暴露限界値の超過。 不十分な換気。 不十分な排気。 長期にわたる暴露。
より多くの量の取り扱い。 エアゾールあるいは、霧の生成。 高い濃度。 粉塵の発生。

経験的に呼吸用保護具が必要な作業：
データなし

適切な呼吸用保護具：
ABEK-P1

注意事項：
製造者が指定した着用限度時間を遵守すること。 技術的な吸引または換気対策が、不可能もしくは不十分ならば、呼吸保護具を着用しなければならない。 サイズの合った、快適で清潔な保護服のみを着用すること。

環境ばく露管理

ばく露を防ぐための技術的な対策

排気ガス洗浄に用いるフィルターのタイプ：
データなし

排ガス洗浄に用いる再生・削減技術：
排気洗浄装置 吸着 凝縮

排水に適用する化学処理方法：
熱処理-蒸留/精留 凝集 油水分離 吸着

9 物理的及び化学的性質

物理状態	液体/ガス(混合物)
色	無色透明
臭い	石油臭
融点/凝固点	データなし/-100℃(ガス)
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界・爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	83℃(液体)/-40℃(ガス)
自然発火点	227℃(液体)/250℃以上(ガス)
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	非水溶性
n-オクタノール/水分配係数(log値)	データなし
蒸気圧	101080.00Pa
密度及び/又は相対密度	0.79(液体)/データなし(ガス)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10 安定性及び反応性

反応性：
データなし

安定性：
この製品は、推奨される保存条件、使用条件、温度条件の下では化学的に安定である。

危険有害反応可能性

溶融した場合：
非該当

気化した場合：
引火の危険性 発火の危険

凍結した場合：
体積変化による容器の変形

避けるべき条件

乾燥状態：
非該当

隔離された状態：
非該当

微細分散/噴霧/ミストの状態：
爆発危険性

暖めた場合：
容器破裂の危険

光が影響する場合：
データなし

衝撃や圧力の影響を受けた場合：
データなし

空気流入の場合：
データなし

貯蔵時間を超えた場合：
データなし

貯蔵温度を超えた場合：
容器破裂の危険

混触危険物質

避けるべき物質：
過酸化物 強酸化剤 酸化剤

危険有害な分解生成物：
意図した用途で使用する場合、分解されない。

追加情報：
データなし

11 有害性情報

毒性学的影響に対する情報：

急性毒性 経口

2-（4-クロロフェニル）-3-シクロプロパン-1-イル-1-（1H-1, 2, 4-トリアゾール-1-イル）ブタン-2-オール(区分3)LD50 106.38mg/kg/ビフェントリン(区分2)LD50 47mg/kg

急性毒性 経皮

ビフェントリン(区分3)LD50 790mg/kg

急性毒性 吸入（粉塵/ミスト）

ビフェントリン(区分3)LC50 0.8mg/L

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

ブチルカルビトール(区分2A) /n-ペンタン(区分2B) /2-メチルブタン(区分2A)

生殖毒性

2-（4-クロロフェニル）-3-シクロプロパン-1-イル-1-（1H-1, 2, 4-トリアゾール-1-イル）ブタン-2-オール(区分1B)

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

ブチルカルビトール(区分2) /ビフェントリン(区分1) /プロパン(区分3（麻酔作用）) /n-ブタン(区分3（麻酔作用）) /n-ペンタン(区分3（気道刺激性）) /n-ペンタン(区分3（麻酔作用）) /2-メチルブタン(区分3（気道刺激性）) /2-メチルブタン(区分3（麻酔作用）) /ジメチルエーテル(区分3（麻酔作用）)

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

2-（4-クロロフェニル）-3-シクロプロパン-1-イル-1-（1H-1, 2, 4-トリアゾール-1-イル）ブタン-2-オール(区分2) /ビフェントリン(区分1) /n-ブタン(区分1)

誤えん有害性

n-ペンタン(区分1) /2-メチルブタン(区分1)

物理的、化学的及び毒性学的特性に関する症状

経口摂取の場合：

データなし

皮膚接触の場合：

データなし

吸入した場合：

吸入すると、麻酔作用/酩酊を引き起こす。

追加他情報：

適切な呼吸保護具を使用すること。 保護衣服。 ゴム長靴 ゴム手袋。 火災の場合：自給式呼吸器具を着用すること。

12 環境影響情報

生態毒性：

データなし

残留性・分解性：

データなし

生体蓄積性：

データなし

土壌中の移動性：

データなし

オゾン層への有害性：

データなし

追加環境毒性学情報：

地域の排水規定を守ること。 製品が土壌に入ると、移動可能になり、地下水を汚染する可能性がある。 環境中への放出を防がなければならない。 この混合物の環境毒性は、個々の成分（第3章を参照）の環境毒性により定められている。

13 廃棄上の注意

廃棄物処理方法

製品/包装材料の廃棄

危険有害性をもたらす廃棄物の特性：

有毒性 有害 可燃性 高可燃性

廃棄物処理方法のオプション

適切な廃棄方法/残余廃棄物：

廃棄物は該当法規に従って廃棄すること。

適切な廃棄処理/汚染容器と包装：

完全に中身が空の包装容器は、再生利用が可能。 IBC(Intermediate Bulk Container)を納入業者に返送する。 汚染されていない包装容器は、再生利用が可能。 洗浄できない包装容器は、廃棄物として処理しなければならない。 汚染された包装は、物質そのものと同様に扱うこと。

注意事項：

処分するための廃棄物は、分類し表示すること。 廃棄物処理については、供給者に相談すること。 廃棄物処理については、担当当局に相談すること。 他の廃棄物と混合しないこと。 認可を受けた廃棄物処理業者に引き渡すこと。 当局の規定に従って処分すること。 廃棄物は分別して収集すること。

14 輸送上の注意

国連番号

陸上輸送 (ADR/RID)	非該当
内陸水運 (ADN)	非該当
海上輸送 (IMDG)	非該当
航空輸送 (ICAO-TI / IATA-DGR)	非該当

国連輸送名

陸上輸送 (ADR/RID)	非該当
内陸水運 (ADN)	非該当
海上輸送 (IMDG)	非該当
航空輸送 (ICAO-TI / IATA-DGR)	非該当

国連分類

陸上輸送 (ADR/RID)	非該当
内陸水運 (ADN)	非該当
海上輸送 (IMDG)	非該当
航空輸送 (ICAO-TI / IATA-DGR)	非該当

容器等級

陸上輸送 (ADR/RID)	非該当
内陸水運 (ADN)	非該当
海上輸送 (IMDG)	非該当
航空輸送 (ICAO-TI / IATA-DGR)	非該当

環境に対する有害性

陸上輸送 (ADR/RID)	非該当
内陸水運 (ADN)	非該当
海上輸送 (IMDG)	非該当
航空輸送 (ICAO-TI / IATA-DGR)	非該当

MARPOL 条約73/78附属書II及びIBC コードによるばら積み輸送

非該当

海洋汚染物質

非該当

国内規則がある場合の規制情報

陸上輸送	消防法、毒物及び劇物取締法、高圧ガス保安法に従う。
海上輸送	船舶安全法、港則法に従う。
航空輸送	航空法に従う。

15 適用法令

毒物及び劇物取締法：

本製品は毒物及び劇物取締法の毒物及び劇物には該当していない。

労働安全衛生法第五十七条 表示物質：

石油留分；ブチルカルビトール；n-ブタン；

労働安全衛生法第五十七条の二 通知物質：

石油留分；ブチルカルビトール；n-ブタン；

労働安全衛生法第五十七条 表示物質（令和7年以降施行分）：

プロパン（2026/04/01施行）；ジメチルエーテル（2026/04/01施行）；

労働安全衛生法第五十七条の二 通知物質（令和7年以降施行分）：

プロパン（2026/04/01施行）；ジメチルエーテル（2026/04/01施行）；

労働安全衛生規則第577条の2第3項に基づくがん原性物質：

該当せず

労働安全衛生法 特定化学物質障害予防規則：

第二類：

ミネラルスピリット；

労働安全衛生法 有機溶剤中毒予防規則：

該当せず

労働安全衛生法 がん原性に係る指針対象物質：

該当せず

労働安全衛生法 強い変異原性が認められた化学物質：

該当せず

労働安全衛生法 鉛・四アルキル鉛中毒予防規則：

該当せず

労働安全衛生規則第577条の2第2項に基づく濃度基準：

該当せず

労働安全衛生規則第 594 条の2第1項に規定する皮膚等障害化学物質：

該当せず

化学物質管理促進法（PRTR）：

第一種：

管理番号627, ジエチレングリコールモノブチルエーテル, 含有率2.50%；

消防法：

危険物：危険物第四類 第三石油類 非水溶性 危険等級Ⅲ

化審法：

該当せず

水質汚濁防止法：

該当せず

土壤汚染対策法：

該当せず

大気汚染防止法：

揮発性有機化合物（VOC）：106-97-8、n-ブタン；109-66-0、n-ペンタン；
112-34-5、2-（2-ブトキシエトキシ）エタノール；64742-47-8、水素化精製軽
質留出物（石油）；74-98-6、プロパン；78-78-4、イソペンタン（別名 2-メ
チルブタン）；

特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律：

該当せず

危険物船舶運送及び貯蔵規則：

該当せず

航空法施行規則：

該当せず

16 その他の情報

参考文献：

JIS Z 7253-2019_GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル・作業場内の表示及び安全データシート (SDS)、 JIS Z 7252-2019_GHSに基づく化学物質等の分類方法、 Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals(GHS) 6th revised edition by UNITED NATIONS、 緊急時応急措置指針「ERG 2016版」容器イエローカードへの適用、 経済産業省発行事業者向けGHS分類ガイダンス平成25年7月、 独立行政法人製品評価技術基盤機構監修のGHS分類物質一覧、 一般財団法人化学物質評価研究機構 (CERI)公開の化学物質ハザードデータ集。

責任の限定について：

本記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。本製品を扱う場合は記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じてください。尚、本製品安全データシートは安全や品質の保証書ではありません。